

ENSEMBLE
PRINCIPI
VENETIANI

×

EX
NOVO

Gli intermedi de LA PELLEGRINA per le nozze di Ferdinando de' Medici e di Christina di Lorena



アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ 結成15周年企画
～古楽アンサンブル エクス・ノーヴォを迎えて～

《ラ・ペッレグリーナ》のインテルメディオ

～トスカーナ大公フェルディナンド・デ・メディチの結婚祝典のための音楽～

1589年5月2日、フィレンツェ・ウフィツィ宮殿での音楽が今よみがえる!

第1インテルメディオ 第4インテルメディオ 第5インテルメディオ 第6インテルメディオ

2022年 **5月28日(土)** **14時**開演(13時30分開場)

日本基督教団 神戸聖愛教会

(神戸市中央区生田町1-1-27)

[チケット料金]

| | |
|-----|--------|
| 前売 | 3,500円 |
| 当日 | 4,000円 |
| 友の会 | 3,000円 |
| 学生 | 2,000円 |

[チケット予約&お問い合わせ]

080-3742-3362(笠原)

principi-venetiani@hotmail.co.jp

ソプラノ:阿部早希子、大森彩加、進元一美、森川郁子

アルト:木下泰子、新田壮人

テノール:前田ヒロミツ、宮本英一郎、山中志月

バリトン:五島真澄

バス:阿部大輔、目黒知史

ヴァイオリン:大内山薫

ヴァイオリン/リラ・ダ・ブラッチョ:天野寿彦

ヴィオラ・ダ・ガンバ:頼田麗

ヴィオラ・ダ・ガンバ/リローネ:武澤秀平

コルネット:上野訓子

コルネット/テオルボ/ギター:笠原雅仁

トロンボーン:小野和将

トロンボーン:南 紘平

トロンボーン:飯田智彦

テオルボ/ギター:佐藤亜紀子

オルガン/ハープ:矢野薫

指揮:福島康晴

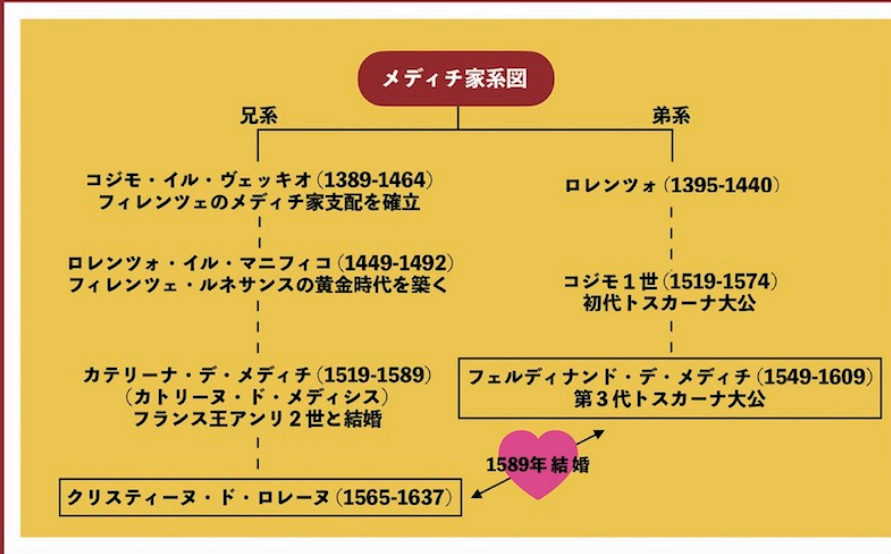
主催:アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ 協力:日本基督教団 神戸聖愛教会

1588年、フィレンツェ。天正少年使節団を招いた事でも知られるトスカーナ大公フランチェスコ・デ・メディチの急死により、枢機卿であった弟のフェルディナンド・デ・メディチが還俗し第3代トスカーナ大公となりました。翌1589年、フェルディナンドはフランス王アンリ2世とカトリーヌ・ド・メディシスの孫、クリスティーヌ・ド・ロレーヌと結婚。その豪華絢爛な結婚祝典は盛大に行われ、文化・芸術の花熟れるフィレンツェの誇りと国力を内外に広く知らしめました。祝典中、5月2日にウフィツィ宮殿で上演されたのが《ラ・ペッレグリーナ(=女巡礼者)》です。《ラ・ペッレグリーナ》は全5幕からなる喜劇で、幕間に6つの「インテルメディオ(=幕間劇)」を含む長大な作品でした。当時の演劇では幕と幕の間に「インテルメディオ(=幕間劇)」という小作品が挿入されるスタイルが主流でした。インテルメディオでは音楽や踊りがふんだんに盛り込まれたことから、メインである演劇よりも人気が高まり、豪華なものへと発展していきます。《ラ・ペッレグリーナ》のインテルメディオの制作には当代随一の芸術家たちが集められ、作曲にマルヴェッツィ、マレンツィオ、ペーリ、カッチーニ、アルキレーイ、シナリオ構成にジョヴァンニ・デ・バルディ、舞台美術に宮廷建築家のブオンタレンティ、総合統括に作曲家カヴァリエーリ、という豪華な制作メンバーが名を連ねています。またこの作品は詳細な記録と楽譜も

出版され、ほぼ完全な形で現代まで残っている貴重な作品として知られています。

本公演では6つのインテルメディオの中から、第1〈天球の調和〉、第4〈精霊の国 — 地獄〉、第5〈海の女神アンフィトリーテとアリオンの船〉、第6〈神々は人間に「調和」と「リズム」を送る〉を演奏致します。

アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニの公式ブログ
<http://principivenetiani.blogspot.com/>
 右記QRコードからもアクセスできます。



アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ

コレット奏者の上野訓子と声楽家の笠原雅仁を中心に、フランスのパリにて結成され、ヨーロッパの主要なバロックオーケストラや、アンサンブルとの共演やCD、テレビ、ラジオ収録に多数参加するなど、ルネッサンス～初期バロックの音楽、特にイタリア音楽やイタリアに影響を受けた(イタリアの様式を受け継いだ)ドイツ音楽などのレパートリーを中心に演奏活動を行う。2008年夏に拠点をパリから京都に移し、西洋の歴史や文化の発展に大きな役割を果たしたこの時代の作品を伝えるために、当時使用されていた楽器の復元楽器を用い、スタイルを突き詰めた奏法を追究する。古楽をただ演奏するというだけでなく、当時の演奏技法をより深く掘り下げて研究することで、さらに豊かな響きや音色を備えた音づくりを目指し、聴き手の方々と音楽の感動を共有できる空間を生み出しているような活動を行っている。



古楽アンサンブル エクス・ノーヴォ

モンテヴェルディ生誕の地であるクレモナにて研鑽を積んだ指揮者＝テノール＝作曲家の福島康晴によって創設された声楽と器楽を交えたアンサンブル。16～17世紀イタリアの聖歌隊を範とし、各パート1人から3人という少数精鋭の歌手と、オルガンを中心としたピリオド楽器の奏者が結集したプロフェッショナルな団体。イタリア音楽、それも後期ルネッサンスからバロック時代にかけての宗教曲をレパートリーを中心に据え、コンサートで取り上げる作品は、必ずそのオリジナル印刷譜または手稿譜を研究し、当時の音楽理論書も参照しながら演奏を構築する。ヨーロッパでは頻りに演奏されるけれども日本ではあまり取り上げられない作品、ヨーロッパの古文書館に収められたまま、まだ演奏されていない未知の作品、そして、既にレパートリーとして定着しているけれども演奏法を再考する必要があると思われる作品を「初めから作り直す EX NOVO (ラテン語)」ことを掲げ2014年に誕生した。NHK-Eテレの子供向け教育番組『デザインあ』のコーナー「ガマンガリギリライン」でも声の出演をしている。

